総合的な学習の時間 学習指導案

平群町立平群中学校
教諭 井阪 愛子

1 単元名　　修学旅行を機会とした平和学習

2 単元の目標

修学旅行を機会とし、沖縄について調べていくことを通して、戦争の問題点や平和の価値について理解するとともに、沖縄戦下における当時の住民に思いを馳せ、沖縄戦での同年代の若者たちのことを「我がこと」として考えることで、自らの生き方について考え、よりよい社会に向けた行動ができるようにする。

修学旅行を機会とした平和学習を通して、沖縄戦での同年代の若者たちのことを「我がこと」として考え、平和学習をそれぞれが課題意識を持って探究することができたならば、自分の生き方について考えが深まるだろうと仮定した。

3 単元について

（1）　教材観

本教材は次の4つのパートから構成されている。

①【見つめる】「修学旅行を機会とした平和学習」の導入授業

②【調べる】第二次世界大戦・沖縄戦についての「事実」と「真実」－それぞれの「探究」－

③【深める】感性を研ぎ澄まし磨きをかける修学旅行

④【広げる】「探究」のまとめ －「探究」から「探求」へ―

総合的な学習の時間のみで完結する教材ではなく、カリキュラム・デザインによって、社会科や特別活動、特別な教科道徳など教科横断的な学習を前提としたカリキュラム設定がなされていることで、多面的・多角的に単元の目標へ迫ることが出来る教材である。

（多面的…当時の沖縄だけの学習ではないこと）（多角的…各教科の見方・考え方）

（2）生徒観

本校の課題の一つとして不登校生徒の多さがある。 生徒の日頃の様子から、身近にある問題に接近できるが、問題を認知できる力に弱い傾向が見られることから、どこに生きづらさを感じているのか無自覚となっている可能性がある。

そこで、問題を認知し探究の過程を経由する学習を行うことなどを通して、生き方を探求し、各自が抱える問題を乗り越えられる力であるレジリエンス力を身に付け、Well-being に向かうことが本校の生徒達にとって必要であると考えられる。

ある不登校傾向の生徒が、「修学旅行は行きたいから、3年生になったら学校に行く」と2年生の頃から担任に言っていた。修学旅行には生徒それぞれにとって様々な思いがある大切な行事

であるものと推測される。自らの生き方と対峙することは難しいかもしれないからこそ、生きづらさを感じていたであろう沖縄戦当時の同世代の若者を「我がごと」として考えることで、自分を見つめ、それぞれが持つ未来を切り開く力に気づかせたい。

（3）指導観

本題材の指導に当たっては、まず初めに、修学旅行を機会とした平和学習について、豊富な教育実践があるゲストティーチャーを招き、これから学ぶ平和学習の意義と学ぶことの意識づけを行うことから始めたい。このことは、学年団の教師が比較的年齢が若いこともあり、学年教師に向けたガイダンスにもなっている。近年、定年による熟達教師の大量退職が続き、今までならばベテランから若手に伝えられていたことが伝わりにくくなっていることから、他校から熟達教師をゲストティーチャーとして招くことで伝承されるべき内容が伝わり、平和学習がより深いものになるものと考えた。

次に、総合的な学習の時間の構造は、学習指導要領が定める教科の目標とともに、各学校における教育目標が並列となっている。つまり、各学校の課題解決に向かうための目標や内容となる必要がある。本校の課題より、総合的な学習の時間の「探究」活動を通して、生き方を「探求」していけるようなスパイラス構造を意識して、カリキュラム・マネジメントを行うことで、教科横断的に単元の目標に迫ることができる指導を目指す。

（4）ESD との関連

・本学習で働かせる ESD の視点（見方・考え方）

多様性…画一的な見方をしない。正義の反対は正義であることもある。

連携性…語り部の人から話を聞くことや教えていただくことは、世代間の連携につながるということ。

責任性…持続可能な社会の担い手として自覚し、よりよい社会の実現に向け「探究」の学びを生かしていかなければならないということ。

・本学習で育てたい ESD の資質・能力

システムシンキング

「ひめゆり学徒隊」「ふじ学徒隊」を知ることで、歴史は運命のように定められたものではなく、自身の力で切りひらくことができることに気づく。（レジリエンス力）

クリティカル・シンキング

沖縄戦での真実から学び、私たちはこれからの未来をどのように生きていくのかを考えることができる。（Well-being）

コミュニケーション力

自分自身の学びを己のものだけにせず、多くの人に伝えることができる。（よりよい社会・持続可能な社会の担い手）

・本学習で変容を促す ESD の価値観

〇人権・文化を尊重すること

命を大切にしなければならない。

歴史は、時間や人が今の時代につながっている。他人事ではない。

〇幸福感に敏感になる、幸福感を重視する

戦争がなければ、平和という訳ではない。

・達成が期待される SDGs

3　すべての人に健康と福祉を

10 人や国の不平等をなくそう

16 平和と公正をすべての人に

4 単元の評価規準

（ア）知識及び技能	（イ）思考力・判断力・表現等	（ウ）主体的に学習に取り組む態度
①戦争の問題点や平和の価値について理解を深めることができる。 ②修学旅行を機会とした平和学習が、今後の自分自身の生き方に深くかかわっていることに気づく。	①平和学習を通して感じた関心をもとにそれぞれが課題を設定し、見通しを持てる。 ②他者に自分の考えが伝わるように目的に合わせて情報を分類したり、効果を意識して表現方法を組み合わせたりしている。	①問題を発見し課題解決のために、探究活動に進んで取り組もうとしている。 ②平和やより良い社会に関心を持ち、自己の生き方を考え自分にできる事を見つけようとしている。

5 単元の指導計画（全6時間）

学習活動	○学習への支援	○評価・備考
1 【見つめる】<私たちは沖縄に何を目的として修学旅行にいくの？> 導入授業を通して ・授業で学習するだけではわからないことってあるんだね。実際に行くまでにしっかり学んでいかないといけないな。	○広く沖縄のことを紹介することで、修学旅行で訪れる沖縄の興味づけを行う。	
2 【見つめる】<第二次世界大戦・沖縄戦についての「事実」と「真実」> 社会科や2つのビデオ視聴を通して ・戦争は人々の命や暮らしを奪う。理不尽で不条理なものなんだな。 ・今も世界では戦争が起こっている。日本は直接戦争に参加しているわけではないからってそれでいいの？ 〈この思いが探究につながる〉 修学旅行資料作り ・沖縄についてみんなに知ってほしいことをまとめたよ。クラスの人と共有できるっていいな。これを持って修学旅行に行こう。 3 【深める】<感性を研ぎ澄まし磨きをかける修学旅行>（特別活動） ・平和の誓いを立てよう。 ・感性を研ぎ澄ませて、実際に見る事でこれまでの学びを深めよう。 ・平和ボランティアの思いを受け止めたよ。平和への担い手は私たちなんだ。 ・戦争の爪痕が残ってたり、基地があったりと現代にも問題が続いているんだ。	○社会科でも学ぶ第二次世界大戦や沖縄戦中も、人々の暮らしがあったことを気づかせるようにする。 ○生徒達と同世代の学生も戦争に駆り出されていたことから、「我がこと」として平和学習に取り組むことが出来るようにする。 ○生徒達の探究活動の場面となるように、考えたことを書かせたり、質問したりすることで学びを深められるようにする。 ○「恐ろしい、怖い」という感情だけに流されるのではなく、平和でより良い社会の担い手であることを意識させる。	（ア）① ② （ウ）① （イ）①
4 【広げる】<「探究」のまとめ －「探究」から「探求」へ―>		

【広げる①】<学びを後輩へつないでいく学習成果発表> 文化祭にて学習成果を発表 ・学びを後輩に伝えることが、私たちの今できることだ。 【広げる②】<「自分の道」を切りひらく>（道徳） 『「今を生きる未来あるみなさん」は、（平和学習を通して）受け取ったメッセージをあなたの生き方にどのように生かしますか』 ・日々の生活を大切にしていこう。 ・これからも探究や探求を大切にしていく。 ・自身が学ぶだけで終わるのではなく、後世に伝えていく必要がある。 ・戦争を繰り返させないことが大事だ。	○後輩たちにとっては学習ガイダンスとなり、3年生にとっては学びのポートフォリオ（軌跡）となるように支援する。 ○平和とは皆で築いていくものであり、そのうちの一人として自分自身できることを考えさせる。	（ウ）② （イ）②

6 成果と課題

学習当初生徒達は、「怖い」「自分には無理だ」「平和であってほしい」と、どこか他人事のようであったが、今回の学びを通して、平和な世界について主体的に関わっていこうとする態度へと変化が見られた。

文化祭での発表後、舞台発表を行った一人の生徒が「こういう発表が大切だと思う」と言った。別の生徒ではあるが、【広げる②】まとめの作文に書いてあった「私たちはこの過去の出来事や人々から受け取ったバトンを未来へつなぐ役割があります。そのためにきちんと自分の考えを持ちその考えを行動につなげたい。」と思っていたことが具現化できたのだと考えられる。生徒達は発表を主体的に取り組み、学びが深化し内面化されたと確信した瞬間であった。

（1 月の末）生徒達は、自分の意思と責任のもとでこれからの進路に向けて、今まさに向きあっている。朝遅刻が増えてきた生徒、体調不良による欠席が増えてきた生徒のように、表立って不調が分かる生徒もいるが、不安などを抱えながらも表出せずにがんばっている生徒も多くいるはずである。

今回の平和学習を通して生徒達が身に付けた資質・能力は、レジリエンスに繋がるものである。困難な問題や危機的な状況に直面したとしても、レジリエンスを持って乗り超え、Well-being を目指して行けるものであると信じている。

中学３年

卒業時に目指す姿

平和やより良い社会に関心を持ち、戦争の問題点や平和の価値について理解するとともに、社会における自らの役割や将来の生き方を考えることができる。自分の意思と責任のもとで進路選択を行うことができる。

社会科「第二次世界大戦・沖縄戦についての「事実」」

第二次世界大戦や沖縄戦について、客観的に歴史を知る。

！当時の日本は、なぜ戦争ばかりをしていたのだろうか

？当時の日本人は、戦争を「よし」と考えていたのだろうか

一人一人が、自身の役割や生き方を考えなければいけないんだ！

総合的な学習の時間「修学旅行を機会とした平和学習」

〇主に養いたい ESD の資質・能力

・システムシンキング

「ひめゆり学徒隊」「ふじ学徒隊」を知ることで、歴史は運命のように定められたものではなく、自身の力で切りひらくことができることに気づく。（(レジリエンス力)）

「ひめゆり学徒隊」「ふじ学徒隊」を通して、歴史は運命のように定められたものではなく、自身の力で切りひらくことができることに気づく。(レジリエンス力)

・クリティカル・シンキング

沖縄戦での真実から学び、私たちはこれからの未来をどのように生きていく生きるのかを考えることができる。(Well-being)

・コミュニケーション力

自分自身の学びを己のものだけにせず、多くの人に伝えることができる。（よりよい社会・持続可能な社会の担い手）

〇主に育てたい ESD の価値観

・人権・文化を尊重すること

命を大切にしなければならない。

歴史は、時間や人が今の時代につながっている。他人事ではない。

修学旅行「感性を研ぎ澄まし磨きをかける」

感性を研ぎ澄ませて、実際に見る事でこれまでの学びを深める。

・平和への担い手は私たちだ

・現代にも問題が続いていることに気づく

文化祭「学びを後輩へつなぐ学習成果発表」

・後輩たちにとっては学習ガイダンスとなり、3年生にとっては学びのポートフォリオ（軌跡）とすることで、自分自身の学びを己のものだけにせず、多くの人に伝えることができる。

道徳科「自分の道」を切りひらく

平和とは皆で築いていくものであり、そのうちの一人として自分自身できることを考えることから、社会における自らの役割や将来の生き方を考え、自分の責任を自覚することができる。